

面白き事也各事了る事也

東國大平記卷之一終

東國大平記卷之二

慶長元年 丙申

一正月元日政宗公少暇出る二月八日岩手山少着

一秀吉公使見の南へ向と云此に少隙を捕ひ給ひ依尾より

橋を渡し往來の自由をあたふ事人との事之依之善法の

元立らるる城も之中の如く是より如に七月十五日子の刻斗りに

大地を震して依尾を城の村造の善法不天守公之云若

千の處に兵ありと崩し死する者男女五十余人之向時少治

川より地形も産れし石垣皆崩れ或は崩れし善法公

人少數人死傷助る事あり四般百餘を捕ひ秀吉公又

里七月廿、本嶺山をんら守城す元立りおんきとて口奉
の大名十名程を奉公人治片の老とて普請のよりおんき今
年十二月九、前生切二渡をく守片依とておん水の境おく各
其印を扇も秀吉公先の地を及も安とて一處に柱を奉ハ
礎三奉目ハ五天来中一畑立を果の影とておんき今
此處に宮を修入去る十二に後しおんき地を及一月を城と
正此頃五葉七通に長と長四五すの白毛を好しとてあし何獄
と云もおんきあし秀吉公案のに普請をとておんき一處に地ハ
おんきあし大名少とて酒を及とておんき其奉公を及しとておん
去も十月娘はとておんきあしとておんき秀吉公おんきあり

長楸に命を及の御入を御持せとて大名の面とておんき
政宗も普請場も出やうりし命を及とておんき一處に地ハ
金洞袖ハ御入の保入を及も地ハ酒を及とておんき一處に地ハ
治して普請の捷功を御入とておんき其比政宗も秀吉公大坂
往還の爲に少とておんき一處に地ハ酒を及とておんき一處に地ハ
吉公ハおんきの余とておんき一處に地ハ酒を及とておんき一處に地ハ
一六月に酒を及とておんき一處に地ハ酒を及とておんき一處に地ハ
酒を及とておんき一處に地ハ酒を及とておんき一處に地ハ

慶長三年

戊戌

一夏の比より秀吉公病臥治いりてを幸無治に及んば
依て法園大為依ん之釋来て八月十五日某府大を依ん據
るるに秀吉公薨去の後秀頼公に二人あり忠孝を抽
らたきる相成をたら上各有所為矣人の起日本國中
の神名を勤行し熊野手玉に血判して奉る秀吉公
快然として別聖後院を熊野之香金山せりや宝殿に池
を造りて秀頼公や若年より天下の政事駿河大河公家
原公加賀大河公利家公宗義輝元之輩中河公秀家城
後宰相常勝五人ありて流石の事なり常勝ハ秀吉公や
存すの中より玄津之國に是然るたらむあり秀吉公若例に

舟上治之秀吉公常勝を召て足下の新願家申すいふや安
をたふん早く治國して領内の仕立をて流石とて予印
順を授けり秀吉公常勝在治して毎々秀吉公の安否を伺
薨去の後玄津へもて

八月十日秀吉公薨去之年六十之^{ニヒナリ}遺言に依て都の東
南の邊河内郡に葬る棺中甲冑兵器を入木食眞
山上人を奉行して墓と爲るに葬るに祠を立其墓に柱
ふ秋原を附神主孫五木新をたて祀て安ん住ま先臣奉
行秀吉公の遺言に依り新八幡の廟号を下賜給ふ墓に
て此の兵墓勅許曰四年四月十日豊岡大明神の号哉

便に此時家康公何るやあるも政宗公も家康公をん次で
後を承継した大坂奉行はだの品物を奉りて家康公
をて付七を評議する石田治部少輔軍勢をて奉りて云々
正に坊田右衛門左衛門を押し退け今日秀頼公若年天下の
大光各目正に于火を争うて戦うて再び大平の功を立
さん物く時勢の變節を以てはしと信じて是より定りて
此をぬきも家康公と四大老心不解りた物を降し依之者
心と和し両方と誓約の神文をえかきし後

教白靈社上巻起請文之事

一今度縁起し奉り身少理に通し兩方共其六向度遠根

不及り言前度六不取為決事二今入認事

一夫因様やむ目十人連判物紙し而目認不^レ可^レ取違^レ若
失^レ去^レも^レ於^レ身上^レも^レ遠^レ方^レも^レ十人^レも^レ身^レ少^レ理^レに^レ人
或^レ人^レも^レ正^レに^レ見^レ了^レん^レ上^レ日^レ人^レ等^レに^レ於^レて^レ海^レ中^レ一
回^レに^レ見^レ了^レん^レ事

一今度變り入認し通し仁首^レ也^レ對^レを^レ志^レ違^レ根^レを^レ合^レて^レ身^レ
少^レ理^レも^レ但^レ持^レし^レ法^レ度^レや^レ目^レに^レ於^レて^レ十^レ人^レと^レて^レ遠^レ定^レ失^レ堅
つら^レ品^レ科^レ事

右條々若於^レお^レ背^レハ^レ亦^レ此^レ靈^レ社^レ起^レ請^レ文^レや^レ付^レ係^レ存^レつ^レ家^レ
考^レ也^レ依^レり^レ前^レ書^レり^レ件

慶長四年二月五日

長東大藏寺補入道

石田治部大補入道

增田右兵衛尉入道

淺野淨心少輔入道

德善院

輝元

景勝

秀家

利家

内大臣殿

此度石田長東增田淺野四人、若其政宗公之討亡遂相
流其月四人判誓、之少院了、以存入道、之書也

敬白靈社上卷起請文前書之事

一今度孫色之為、月少理、通兼、由、其、上、六、向、後、遺、根、
之、為、存、在、石、田、長、東、等、判、誓、事、可、令、入、總、事、

一大同標、之、月、十、人、連、判、誓、紙、之、布、目、孫、石、田、長、東、等、遺、根、

若、其、為、之、之、判、誓、事、上、也、遺、根、等、之、十、人、之、月、少、理、等、

一入、三人、之、之、判、誓、事、上、也、遺、根、等、之、十、人、之、月、少、理、等、

之、判、誓、事、上、也、遺、根、等、

一今度双方入魂に通じ仁あり也其若に對し道根と含
み存方ありし言ひは但背少法度少き目了に於て六十人
とて遂に整てまは花科事
右條々若於古背を亦も此靈社上巻起請文少付
深孝可非宗也依て前書少件

家康

慶長四年二月五日

加賀大納言殿

備前中納言殿

會津中納言殿

高懸中納言殿

徳善院

淺池淨寺御入道殿

増田右衛門尉入道殿

石田治部少輔入道殿

長束大藏少輔入道殿

右も通多しを相互に平和成多し又石田治部少輔家

康公彌懐威に誇り万事怒に振舞終て天下を奪ひんと

さると披をぬし是て一時の山西柳津守と示し合せを利家

宗勝と家康公の中と云隔て互に誓懐を揮てせむる

俣に事ひ七んを云ひては比家康公使え向路の
地にやせり示に各押寄可打早おむとの虚脱を唱
依之京使見頼に據立家康公利害を互に疑を争ひて
共了用ん互に後家康公了りの実言をぬい疑の事とて
日と隔ハ必虚脱し実にならざるも歳を五大老の内五
奉行へ号給ハ元来虚脱の事あり其実事にあらずを元番
治部口説き起るとして是れを既之三成とて并果と各
評定より争ふに在竹右京大夫義宣は事を争ふ處に三成の家
に争ふ事の急を告て三成を同及して使んのとて家に隠む
家康公義宣再之使ふと家康公三成を打七とせり云ふ

容易りたるに後之れ共義宣途中の執をとり三成を擽て
大津と送りては是佐和ハ三成居城に
一五月十一日政宗公ハ息女家康公ハ子松平上洛并忠輝公ハ
少孫江に御合

慶長五年 庚子

一慶長五年家康公大坂より在方會津景勝上洛延
川より家康公より伊若をより立京橋より志保に川電
已秀頼公を守護あつた大岡の遺言にお誓りしつて
是日ハ世間の虚脱未辭人より疑心を懐くハ天下の

屋代勅解由兵借ふ火と云ふ勅抄有凡も能て所為不
申掃云ふも據抄に依り白石の人數多し存ぬと云ふは
家康公も少便者今丹宗黨をとき政宗公白石借を少巻借
けりた後炮と云打せ宗黨死せにうらんてと云ふも
互に右道定宗火のものと云ふも勅解由兵借に先とせし
也とい得意に攻寄り及合我は後炮も止らるは時不勤
但後炮中村にあり盛時領の若荒川九八大田孫次舟矢目
伊之儀依る孫平河田助七兵衛に逃るも據を兼攻攻入
て我今丹兵舟少嶋三吉ら石川六兵衛石田少平根木千彌
等是又據を兼攻陣中へ丸入攻我て終り討死柳田掃部

証江十内遠近に方乃丹也是たの事教人石等ににありて死す
イニ母を去たむに去るも負ありて 此後少平河田子左門十七を率ふる
討死者大抵陣を能御り居り也 又京細不百連は海よりあり又陣如(加)り攻攻の首二
の曲掃の地を兼攻本丸の石垣の下(舟)は是は其の供の家
人等にありて死す石母田信守宗新も據りて押寄せに彼
り我が事折あり百了今道方も信を立後炮老くも早に
立降たりやし戦しと云はしや又入城しと云り聞て車に
馳向衛を命じて日道して立降る右兵少平後大膳と号も此
時十六年又武山修理重均子孫藏重信舞者未勅解年
十八歳兩人迫合是も據りて自ら下に政宗公よりハ彼若兵少

とて白石彦傳と馳使れども傳せし七月晦日の所を以て
是あり是越ハ白石彦一助也時に今此と兼九城と越人
と亦入る捕せしおる人付九と兼此越人傳し傳せし
下又政宗公や在陣し今并宗堂守陣也此傳し今此
志摩堂長とと指副奥也此兼細と云ふは及守建部
栗川城人の御の免兼州長と出陣と云ふと云ふは及守
治部少輔守保親と兼家康公野武小山と出陣在東口
と云ふ免洪と云ふは政宗公や入ると兼奥也御も免
又召し入ると一左右と云ふ侍石川大和と白石彦傳と兼
や人約二千余人と指保八月十日政宗公ハ白石城ハ北見と云ふ

入りぬ山岡志摩と云ふは及守建部岡守のり千代傳や再
奥とて政宗公や居城にともぬ免と云ふは及守内也此
越ハ先年奥公ハ一揆の正法の免や下向の所玉造郡岩手山
城や建部と云ふ免と云ふは及守下城主に傳せし此ハ右岩手山
内と云ふ境と云ふ是運送に供氏国守は又ハ海道と云ふ用
不自由と云ふは及守千代の城免と云ふは及守下城も亦
上りて家康公と云ふは千代の城地先年や下向の所や免と云
ふは及守免と云ふは及守千代の城地先年や下向の所や免と云
代の傳や免と云ふは及守千代の城地先年や下向の所や免と云
は及守免と云ふは及守千代の城地先年や下向の所や免と云

一七月政宗公横田玄蕃元祝と云考に依り京勝原伊達郡
川股の城を攻め玄蕃ハ政宗公完不伊達郡を願ふ
事時川股の城主ありに依り玄蕃河股の城を攻め右城を
攻めぬ秋山大波小波好と云在泉を横掃い大波と云所
陣を元然るに日廿四日大陣戸打出玄蕃とお戦ふ義
戦勝れて川股の城に退くぬに款程進まず攻戦る意に
玄蕃人おも血汗たふして攻戦い款五百人程討死あり
依り款も思危て引退く然兵河股に京勝原とて味方する意
に城すめり城を攻めて立陣あり

一八月廿二日のや伊達其川田伊達信丈二本松垣松田村長井七

不政宗本願の事には官家老の考共にて死ねる家康より判
物を法字右七ヶ所を都合四十九万五千六百石案と別紙に
目録を添はす

一河田郡白石高城の赤日郡飯坂村小川之や左馬古山新丸
より妙庵文治男と云此仗共小原村十九人の考共々信長と
小原村の内舟石と云此出入白石を委寄の考二十人斗
通ふを待てて右の内は考三人討死其内二人ハ云りた馬
討死三人ハ文治討死其首を政宗公北目の陣に送りて
屋代勘解由三痛を斬自今以後右考共々味方する由に
政宗公被志共々ハ伊達更と云下ハ京勝原置賜郡屋代

左新嘉村志田城主大畑吉三傳次(刈田郡下室村滑津村
より)人質をとつたや、惣も是れに下室村滑津村御儀
村山原の者とも日吉一政宗も、つれも在田、今、故人
質不ち、今、日、郡、湯、友、村、ハ、新、嘉、人、道、所、も、在、是、て、人、質、十
ハ、人、吉、三、傳、次、に、元、主、之、依、り、湯、友、村、ハ、其、共、つ、れ、も、に、未、だ、も、
然、れ、に、新、嘉、新、嘉、と、云、者、人、つ、れ、も、つ、し、自、石、下、米、俵、(道
里、ハ、此、所、と、云、人、召、捕、封、禁、と、奪、元、政、宗、も、一、持、立、也、)政、宗
ハ、筑、前、と、云、獲、取、と、云、中、下、上、下、と、云、下、上、下、大、畑
吉、三、傳、次、自、石、の、陣、入、り、を、合、せ、後、治、と、人、質、大、畑、吉、三、傳、
津、村、と、出、今、新、嘉、日、吉、村、の、内、佛、松、と、云、此、に、柵、を、築、り、津、波

戸と云、此の柵を切崩、本滑津村の者共、与力して、日、刈、山、原
彼と云、此、より、後、治、と、云、御、儀、を、攻、取、り、吉、三、傳、次、も、
川、近、く、又、米、俵、ハ、自、石、の、持、立、也、新、嘉、二、人、戦、ひ、も、持、立、也、村、を、
並、道、の、あ、り、の、去、り、に、出、也、今、日、下、室、村、に、伏、御、儀、助、力、を、
助、十、中、日、野、之、河、と、云、者、此、ハ、右、邊、村、内、人、上、り、に、
一、も、内、ん、を、見、る、と、ハ、何、時、の、例、と、云、依、り、此、所、を、人、も、
切、殺、さ、れ、に、人、ハ、も、見、て、逃、出、る、事、を、終、本、二、市、を、
惣、切、合、し、た、二、市、を、活、も、身、危、ん、ハ、ハ、云、竹、別、也、惣、切、
一、と、彼、所、を、突、殺、さ、り、依、り、米、俵、ハ、大、畑、村、と、持、立、也、
今、日、滑、津、村、下、室、村、本、村、の、者、共、一、同、に、滑、津、村、の、内、佛、松、と

人形を築め西使の糧を切崩し出向之米決弊乞と云へり
命を賜ふ山をさす米後より元徳の御時滑津川と切
立られ故北と云ふに下関村介丸助十郎滑津村中
之傳云々ハハ大勢下関村と押込するとのありハ我書
子共助る者ハ人ト云ふ者も是れ及くと付死を遂げ
と云へハ是等と云ふと滑津川と適合板の上と迫合下
関村助十郎村丸助を介取味方付丸助人之三竹ぬき
坊陰をいふ安掃社と云ふを安掃社と各所を直し
防致給ふ米決弊と押込と云ふ又米決弊押寄ると
昔事と云ふ滑津川の関の老兵者より連完上願羽

上の山内高蒲決と云在只落り米は滑津河下関の
家兵をさすも安掃拂ひ其上上山一便と云関村滑津の
者共と云道延由り米を依し松之木の老兵蒲方の山中に
近居りて海を傍海と云後世迄と各本所に居住と
一九月十二日景勝老臣直江山城守米決と出陣し日土色
新修屋と先と云して秋中山と城と畑の地押寄と城主
江口五三郎と云小吉惣忠依能防致と欲お多の付丸助共
後流の加勢もあつ僅百人中に大勢と云云と云ふありハ
遂罷城も難付完上願後との者共と云ハハ大勢と云
為て所々の城と山形と遊集る依り義光と云ハハ早

知谷を以て川井よりたきゆり知者五を居りて大勢とのとやみひ
一戦の御もあく川退りや五人のさあれ我々のに於ては二
も川をたきんとて知谷に籠城してはく防ぎ我ひ河口又子
忠作のまゝあを指板し各股切て抱を盡た義死を遂ぐ
此時義光も河口を助んとて夫相撲飯田指板を細谷
一は指板向ふに知谷既に籠城を細谷進ふに備を立人敷を
孫入んとするふに直江人敷放て攻戦の百指板並呂連
人敷並指板を相撲するふ谷我の好くをんて大勢弱か
るをそ知山に川入りぬ山降は細谷の城を攻め人敷
と籠を同り春日右衛門をえとて川井村木は若木山

の意幸川ハ沼長崎に乱入して横拂ひ柏倉の在家をぬと
教一長谷きの直不若快と云ふに直江本陣と云ふ在門ハ
其山の麓指う崎おに陣を元佐佐木上山の麓に陣を張
る此時義光も出陣を折く小妻合らう長谷きの城主志
村伊豆と云ふ之山形より氏家直江を加勢に籠もれり
直江長谷堂を攻んとて人敷を出し彼城を攻め教大刈
田して城を引出さんと謀り先きの内より人敷を介上
の山(せせりぬ)城内よりも乞を防んと人敷を出して待設
きたる直江方勢向て戦ひた上らぬを教に押免す進
乱を新買は前を炊屋敷討死之時由利庄内も京

勝願分ありて毛部奉志田二ヶ城攻と云夫大将と名
素て由利庄内の人數を以具し一観音寺口は川の安寺
河口三方より古口は川の河口より半地大石田橋沼沼
白多海をき谷地を河江白岩お伏長戸橋木橋拂て
押来り又北方より秋田仙北南部氣多来り小圃寺を根
長伏新陣尾花伏宜伏徳志東根天童橋伏亦攻破て完
上中に長谷寺と山形両陣の外海ありお直江方ハ長谷寺
の陣向平に陣をえ候と堅めて口々小麥合らと成光ハ長
谷寺を救はんとい出陣あり共川を隔て長谷寺を遠く
より押へらるる長谷寺の陣ハ山を容易に中より攻めし例

川の者より敵ハ新にえ候と城へ入んとまゝに相打ち候
に口を送る候も亦直江方中山武藏ハ山ありて九月
十七日山の陣五里に城後をとりて敵進しと待候り候
も中山武藏木村監物等より城を押しあらし田放大を戦
後より口のを定て打出敵に殺し候時よ山の陣戸口
押し来り候を前後より拵候に攻敵ハ木村一舎を控り防
敵をとりとも糧無しの困り候に討死の大將討死り候
軍机も嘆て敗北をいふに中山武藏我人數をいへり
作て敵の勝りしつて追来りて討死大敵を吹たしつて
追を免るよの山ありて長追差ふしつて各陣内へ

たふさふあれて治めり者ありし主水七右衛門馬場とて探
人を起て城際三四十門拂少侍にそれ玉主水と稱呼す守て
馬場とて里見城後より甲斐守金原の守と云ふに走主
水と首とを元陣中とに勢ひ一處に打至追討して討死す
云津乃是とんて敵身を城を棄れんと呼とに死す中も
二天守右京と甲斐守數十人ありし先んて天童孫七
を討死す城後敵大勢にて追討すといふ人殺を城中人
今之直向山城来り討死す情の上の山北次（山北次）の多るに評儀
為に長谷堂の城を棄れし山北の城を棄れんと呼す
此のころ隠れあつたを城主志村伊豆義光家老の面を
評儀して曰す女好子修理大夫義康と政宗と北目の少陣知

評儀して曰す女好子修理大夫義康と政宗と北目の少陣知
一と加勢と信と政宗と義光と伯父婿の言と志とと不
和と加勢と信と政宗と義光と伯父婿の言と志とと不
及て此の相義康は曰す女好子修理大夫義康と政宗と北目の少陣知
政宗と北目の少陣知は里見城後と少使として城内あるを
後義康も北目にあり政宗も福見あり此度常勝並白山城
を大将として領内初くと棄破らしむ剗身長谷堂山城守
責破也凡中と云ふ名に加勢と信と此意難と救給る及
名願ひて能く政宗も少加勢とて名を義康に所合與る
而に陸奥少守と進出するに城度見上少加勢と云ふ也並

お政宗ハ義光ハ軍評定ニテ欲陣通ク御ト云共両方
侍の間に大悪新らそ合戦にて及子立あり日北甲斐使山と
山形の方沼木村と云処政宗ム加勢の人殺遠慮但も小田吉
大學石川弼平実元ホ各武勇方と云乎て例川を前に芝押を
を先欲陣を察ひんんと人殺又く川具し例川を徹す亦に
春日右衛門人殺を分出て合戦と但馬弼平大學を以て殺御
ありて是も欲味方の官地沼田者も奥川より自由丸方を殺を
討丸沼木陣処へ立御と

一九月廿五日政宗ムハ茂庭石見延元(足軽二百人)指原宗勝
領分刈田郡湯原の城へ指原接印と云由に御者一人に

宗勝を討つ城ハ城主とも云云其の考共には宗勝を討つ所の者
に政宗ム後代し御自ら下しハ少味方に系忠を以て捕ら
ゆりて身命宗余助むゆりに入らぬ小島俊成下を備陣
湯原五ヶ村の人殺川邊湯原の在るを放火し宗勝宗来
大畑吉之清兵衛新助の押せり此時湯原所捕らる程
出雲其子孫ちろと云ちろ十左乃と云中一其子中一又子入と
そと其の妻お勢儀立お佛首殺二上討丸生お六十八人を生
捕右出云并五男光吉討丸右出云を討丸欲ハ湯原村を
仗高崎甚中と云共討丸之日村に仗高屋籠前も言名之湯原
村ハ完初に少味方に系ハ政宗ム生と云ちろを討つ

下園村野仗出雲平太夫一條平十郎出雲路七郎源平太
戸口北太字源平中一少雲路平中一少雲路平中一少雲路平中一
雲路平中一少雲路平中一少雲路平中一少雲路平中一少雲路平中一
野仗古山平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫
九平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫
石見平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫
いふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
明後乃外に屋代在り相の城主春日右衛門加賀守平太夫
新名との平十王様と云ふと云ふ村の若君と追討平太夫
茂能石見人数を惣合春日右衛門人数を追討平太夫

原村平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫
一政宗公の追討加賀守の人数と云ふと云ふ村の若君と追討平太夫
を乃日七平に平明石と云ふ(出雲守)然に上方に於て石田
三成軍東方に打ち負敗北と云ふの田原勝守伊予平太夫平太夫
方人急使と云ふ石田敷北を告ぐ米沢(平)川入との事
直に於るを平太夫大款と云ふたふ川退く去容易かた
や川足と云ふらぬハ味方の役軍疑ふと云ふ物に平
定して俄に米沢(平)川退く去容易かた
さて又上方にハ石田役軍と云ふ平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫
勝方長井の若君平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫平太夫

江こころにあふんとまゝ上の山の陣主里うん城後迄と見保田と
臨一途を上に出くして待たる長井の敵と欺ひて保田に居し
入二十余人の首をとる別は首をと長谷きくせし西の陣か
きあつて敵西にんき直にきとつて山岳に川丸んとせん敵
指にきく川丸と長谷きを強くきつて敵のききを奪ふ
其勢を以て味方と謀りに保んとし日七九長谷きくを
せて弓矢炮を討たる陣中にいきとつて味方をたふす
つとる依之陣下の根を危く安く焚拂ひ味方に及て敵軍
川揚んとて陣中にいきて用意のりあれて弓矢炮一隊を放
たす川を以て討て上川後きく敵を討捕し今も長谷きく

山口軍兵備一番に急入て根を危く放火を以て八月終末
明も山岳下知とあして人数を以て陣をとり保し一行
紐を測え川平く長谷きくにいきて見そ人数を出し喰ひて
討たんとし義光義康政宗も其軍を敵とすに押指
ま津丸此敵多討たる並に味を立て是を討んとす其敵兵
後より進をりて是を止る外あり其上危好達丸の捕進行て
進退の急に相りま津丸先にと居りて並に保たし其
山の根を敵下に下立毛槍を道たみ床机に腰を懸る軍に
云て曰く此の敵軍我不足惜友への目面をき若くは
居るに及て腹切て死ん其方敵を討て居るなりと云敵軍

の士卒近んといふにたふし況や直江完朝の軍多のいせし
近れに及そとて各名を連し勇氣を勵し山城に完朝の二死
して悪軍一度にたりゆらう燃そとて死せぬとて突て死す
一處に前田監日淺と云て完上伊達の追討する敵を突
崩そとて待て完上伊達危く討死の義光政宗自らに下知
して悪軍を集て何と立敵と待て死すといふ直江も亦とて
善兵多しといふ味方も元無にお引に引近く云津方は
時の敵は前田見次中水野直之信赤塚元右衛門守
右衛門直江完上表を急川掃ひぬ兵谷地城に死す
る由利庄内の若兵に控陣急そとて義光無人殺す云

押寄者義光表に城守防戦に手立なく後張の味方
也とありては降参を乞ひ由利庄内の地とすむ後張の若兵
を助す給ふ及そ名額りに信云りける人彼お堅く
元もて谷地の城をらぬ出生聖事義光庄内三郡由利
と討死すといふ時東禅寺の城を攻め東禅寺をハ名額り
海大空寺をとも討死すといふ各名らうといふお完上表詳澄
に月伊達の加勢が危所をにゆらる伊達上野介政宗八月十
月末方に陣陣を内と政宗とて死すといふ京橋自ら完
上とてお働死すといふ完上表にや出馬らうと京橋と右軍のや
勝負てるといふ京橋終末七名ら重信と完上と死す左右

政宗公の御中に召給抱其時年七十三政宗公教及の言召
とて召召劍銃砲百七十挺の物此に仰月御中に召出
之後分捕の太刀槍お召召子供に召出はか西に依及九
重成五島寺方人共馬上騎歩武老等數十人討死は五
市左子息吉保も身之大崩成於信祐も八名元南方の
人殺を召給副馬上甲冑長柄弓銃砲木數不知十月終戸
上山の邊にて合戦の初敵後より打圍成於る所の五十年
人討死も保去東左也入道江南斎武山終死はたは完上後取と怪り
かたと尋り
重均も八幡田郡の人殺召給原西人急疾馬上四十八騎長柄弓
銃砲木數不知江南ハハ召押大敵の役を召仰召之信託跡藏

吉木初市若輩を召とて一も抽て五箇に檢田主後願ハ三槍
月次初四日三人召ふも召之完上境皆田郡若川村
中ノ内城に召召石破金右を傍実常馬上二十騎川邊
召之完上(五陣)召召召召召召召第四郡足輕銃砲百挺此
以麻又大藏長柄百二十本以以麻又肥前銃砲二百挺以以
四人遠度但馬石川彌平実光若木掃於佐布澄以以
重石川彌平小田寺大學勝成ハ信木の陣処召召召時召昆
召以以召召小田寺大學以赤越路召召召長柄の召原木と
彌平大學以召召相ノ軍中し召人召合せ一召召召召
召也召召召召召召召召召召召召召召召召召召召

大學より浦平と唱い敵方にもあつた由に十月終に
平敵を逐て浦平の時流を木の枝に引無きをあらん
とて浦平馬よそ人に留むる時馬を立而た敵大學
引込して浦平を危く見ゆるが大學馬を引込し浦平指
おを陰をひて木の枝よりおし立陣んとてあつた大學又
指おを木の枝に引無き平又馬を急げし是を介し
兩人急連てゆると敵し足物あつたにて是を討九人と
そを考ふし平大學軍中云合せ御しゆるが五人只
よ元来二本松右京義隆軍中より出るとは遠慮但る
ハ元来浦平二階を宗中へおつた青木掃部は名

つと且又留の青木幼太中十一年と掃部は五原陣中
へ玉疵を蒙り一兩年を右府丹波にて死す右軍中
敵方よりし赤井隆の指おしたる武若一語を宗来
る平大學にひひりしは秋あるは法圖を武若
僧行たといふとて打九首一お送りて大學を
へ投出きて大學しを合せ別敵軍へ急送し首一お先
の武者送りてとて二を以後水中初を敵の宅へ政宗
よゆ出の時物山田氏とて同陣の時役入山田を大學
を政宗へ送りし月政宗よゆ投出は其大學子山田
を急敵とて急つたは供を急連中へ急人を急敵

と守出各素合定止陣申として生元又大學子と武者體りの
者と名を奉て首を元かきしり共我之と決りしと
一政宗公の定方定上二品帶し其の後彼後喜良末と名
百茂尾石見史元に馬上九十騎長柄二百十騎長柄百五十騎
百五十挺真山五十騎兼法に馬上八十騎長柄百五十騎
五十挺法脱百五十挺湯村信忠木段芝馬上二百七十騎
長柄五百五十騎五十張法脱七百挺とあり
一月年十月十日大細吉三協方とあり湯原村とあり
高橋出雲女房兼生女子飛人多高橋嘉吉子孫十一年高橋
高橋女房兼生女子高橋嘉吉子孫十一年高橋

茂乃祖母妙庭遊後子次市十八年中川法守高橋祖母高橋
新之橋子約十八年二親高橋子孫十一年日村味田しの高橋
但馬守高橋以上十二人より六人新高橋近新國子何何
と高橋の多し生御湯友と高橋の多し皇年高橋の多し
一政宗公高橋尾二歳と高橋を以侍二歳之年半にあり
高橋の多し譜代の能代高橋の多し依て二歳の子孫高橋
尾高橋高橋と云ふ

一月年家原公定高橋の多し高橋政宗公南部高橋の多し
本南部家原公に高橋の多し高橋一味高橋の多し高橋政宗公南部高橋の多し
高橋の多し高橋の多し高橋の多し高橋の多し高橋の多し

端に陣と見えぬ如く信濃守多智を以て岩崎の陣と見え
敵を攻むに陣内の者共後徳の幣と一ツ上と見
御出する所に多智に打立られ敵に放たし徳宗直
主馬を以て深水谷に隠れし主馬を以て五月自害して死
す是は何れと見えしを知らし

一月年政宗公京勝領分伊達郡柴折表の御を以て
見る少くもや人数大なるに完上（少加智に結き有少近
川の処完上の敵放たせし事）月十日言名元郡小
目の陣不とや出馬ありし刈田郡白石の陣（少加智一ツ少
道田日身）京勝領分伊達郡岡元山に陣を以て港の人数

と見持折（白石と云尼山
白石と云尼山）少跡より少人数し信濃守又完上（少
加智に結き有少近
川の処完上の敵放たせし事）白石花園（此等之は初柴
折表の少出馬）月五日の陣主は倉橋守宗潤の先子
と云作舟の如く政宗公御に少出馬と云ふ所道之助大隈川
白石川を隔て其上川を橋を以て系し月京勝（同）に八伊達
郡果川の陣折を以て舟橋守子供少くも重潤（十七年）
て又におたし山形郡陸奥郡松尾信光も長時但孫花百
挺と云信彼城は福島郡の城より五六里味方道通く大
隈川の東に果川の陣を以て京勝元年次田大炊と云代
武勇の名を以て政宗公御に依て居て居て是も柴折表の先

才也所の者共まゝ子あを人雙に元あるに城内にハ城之台
お奪取平彌治市大将有にハ考木早人川田玄英氏者
奉行専ら伊豆入道信人にハ永井長元乃呂左内後に残
後と云考之考木新を信後考考と云考之考木をハ左内後
に史記と云考之考井信甲守也考考乃布弥治市考北
川馬考安田勘助小川玄佐考木長元乃ハ正隆之政宗
公朝考考深く考後凡乃考考ハ相考考考ハ人数と云考
に二の考勘解由考考人数能川を残ハ知ハ考考ハ乃乃
考考と云ハ考考所ハ考に押考考考考考先子石見考考
考考考乃考考田近考考人数を子の押考石見人数朝考

に孫也考考所ハ押考考考考不考に考考考失ハ能上考
の考ハ引退之依ハ所ハハ人数押考考考長考考考考
の考ハ引退之依ハ所ハハ人数押考考考長考考考考考
お考考山別考考考考と云考田村考考目とハ考考考
上の考の考考考考考之政宗考考考人数を考考考考
ハ福考考川と押入考考考考中考考考先を考白石の
考を政宗に考考考考考又ハ考考考考考考考考考
家の考の考考考考考考考考考各人を考考考考考
とハ考考考の考考考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考

及二子押付を少切と申しむ。及二馬を死し。遂に政宗公
追懸候へ。及二子あり。被取小言き。及二馬を立只り。及二
我の傍に。及二大将政宗公とん。知り。被結。其邊に。及二子
口未ハ。伊豆入。及二道。二子あり。及二名。素。被。及二近。及二此。及二
中。及二宮。及二方。及二欲。及二討。及二死。及二兵。及二馬。及二下。及二腹。及二二。及二刀。及二切。及二首。及二
持。及二ふ。及二馬。及二の。及二口。及二と。及二下。及二人。及二と。及二待。及二合。及二て。及二馬。及二と。及二川。及二原。及二之。及二守。及二隊。及二邊。及二
仲。及二伝。及二次。及二男。及二小平。及二治。及二之。及二綱。及二十。及二八。及二軍。及二と。及二は。及二軍。及二中。及二人。及二は。及二張。及二欲。及二と。及二討。及二死。
とん。及二子。及二付。及二意。及二と。及二了。及二外。及二に。及二欲。及二ふ。及二に。及二歩。及二立。及二の。及二侍。及二傳。及二御。及二と。及二守。及二屋。及二伊。及二豆。
及二是。及二小平。及二治。及二之。及二意。及二と。及二討。及二死。及二と。及二指。及二面。及二し。及二小平。及二治。及二伊。及二豆。及二を。及二叱。及二と。及二歩。
或。及二者。及二ら。及二と。及二あ。及二り。及二其。及二方。及二打。及二死。及二及。及二と。及二云。及二控。及二敵。及二の中。及二馬。及二を。及二素。及二也。及二京。

膳物此安田勘助と馬上等にお致し。及二後。及二江。及二江。及二外。及二江。及二勘。及二助。及二力。
及二は。及二さ。及二ら。及二と。及二ん。及二小平。及二治。及二を。及二控。及二手。及二指。及二殺。及二ん。及二と。及二さ。及二ら。及二外。及二に。及二小平。及二治。及二馬。
及二之。及二合。及二勘。及二助。及二を。及二指。及二殺。及二首。及二と。及二打。及二死。及二右。及二小平。及二治。及二を。及二後。及二江。及二人。及二と。及二大。
坂。及二と。及二力。及二し。及二と。及二流。及二陣。及二と。及二と。及二右。及二守。及二屋。及二伊。及二豆。及二六。及二次。及二買。及二川。及二侍。及二政。及二勇。及二力。
の。及二巻。及二と。及二若。及二之。及二勘。及二解。及二由。及二之。及二房。及二方。及二と。及二山。及二市。及二重。及二通。及二十。及二七。及二事。及二と。及二五。及二十。及二伏。
を。及二之。及二東。及二邊。及二に。及二於。及二て。及二景。及二猪。及二物。及二此。及二小。及二川。及二傳。及二方。及二と。及二馬。及二上。及二と。及二五。及二戦。及二
及二に。及二山。及二三。及二市。及二内。及二と。及二若。及二或。及二人。及二海。及二と。及二追。及二身。及二降。及二と。及二傳。及二方。及二馬。及二を。及二安。及二依。
し。及二傳。及二方。及二馬。及二と。及二山。及二市。及二内。及二に。及二於。及二て。及二死。及二り。及二首。及二を。及二死。及二に。及二は。及二傳。及二方。及二を。
及二手。及二の上。及二に。及二て。及二小。及二梳。及二と。及二云。及二弓。及二を。及二持。及二て。及二討。及二死。及二右。及二守。及二親。及二と。及二山。及二市。
分。及二捕。及二して。及二子。及二孫。及二今。及二に。及二持。及二付。及二ふ。及二と。及二右。及二傳。及二方。及二馬。及二を。及二傳。及二傳。及二傳。及二に。及二指。

と云ふ八明、政宗より付死をたしと云て甲の内（加藤）を燒
逼り出陣せしむるも此の老若も言名の心算をたし
と云て陰の柵をよこし切まねにぬき政宗の奔陣を突
崩りたりしと云合ふも、こゝろに政宗も怒りしに、はた
槍を打ぬきせしむるも、おん人殺しに揚られり又若性ゆか
人殺し出りし所入に陣をたし、宗元もきしむるも、疑
おん人殺し中より、人も御出はりし、由出下りし、政宗も
に伊達より出合に山中に討たると、右助ふるもの、ハ、靴、又、小平
太と云若子供日毒脱諸をもつて、此を又ハ、橋、又、左
足、は、と、云若性、松川、越を討たし、此、比、武若性、終りし、い、し、車

丹波と云若梁川の陣に、毫、拵、か、て、柵、の、柵、を、さ、し、馬、上、十、騎、を
討し、是、恒、百、人、程、川、運、大、隈、川、を、越、幸、折、と、後、田、の、多、人、出
折りし、河、田、郡、白、石、の、政、宗、も、陣、如、く、兵、糧、を、運、来、り、人、馬
通、り、ぬ、を、伐、敷、し、し、は、若、性、宮、崎、内、藏、分、吉、之、園、又、の、陣、中、ハ、福
島、も、来、り、ぬ、に、右、梁、川、人、殺、し、出、合、お、戦、政、宗、も、福、崎、に、お、り、陣
と、本、彼、陣、を、責、め、り、し、る、も、と、名、召、ぬ、に、梁、川、ハ、兵、糧、を、運
込、を、防、り、ぬ、も、少、陣、し、難、針、先、梁、川、を、攻、破、り、し、る、也
幸、折、東、下、竈、と、云、外、ハ、馬、を、出、さ、れ、梁、川、の、越、を、待、せ、り、し、亦
に、願、ひ、し、御、出、り、ぬ、も、是、し、に、月、岡、ん、山、ハ、少、陣、に、是、不、景
勝、家、本、後、田、能、登、と、云、云、若、性、人、殺、し、兵、部、も、也、馬、上、十、騎、を

諺云後炮五十挺ヲ持ルテ政宗云ハ權代アラスと云テ伊達
信実の百姓等四十人五挺を并直江山城守後炮以極力
内通スルヲ持テテ其の産地也云ハ六丁を宿金剛院と云山伏
并所人三十四人永井の槍を切落し何れも同入連判し政宗
云福清の妻なり火の事を上少味方て居る伊達安房を
上少味方又福清の母を攻て之を奪ふ事石川忠光
上ハ福清の御の内ハ仙道の人教助合又栗川と打集ハ未
後より元配の味方と難儀多し其難儀先ハ政宗人教助
揚子其内より政宗云月七日に志ん山少の御内ハ福清
の御のり家康云ハ使れん御上其十月廿四日の付

福清妻の至子立及ハ故人教士御れを別進所教多打元福
路口ハ押詰是此教士合共其教度粉骨を奪入程ハ信
心感悦云云云云云云

一月月迄全備中京綱を白石の城主に御旨
一或記曰 伊達 信実 刈田 田村 塩松 二本松 米沢
右七ヶ所家康の御旨云云死行考也

慶長五年八月廿五日 家康少判

大崎史傳及

一完上記に云云七ヶ所の打集今月五ヶ所を打集不將又
清水上野原及俱馬并野武士三百人後炮二百挺持し

我寺も被給之出陣之乃是以及是死其元一之り案前可
然極之云々之事を以て此倉小十郎一子被給内府下地也
可出陣之或是之安許し極子被給之云々案其元一之り
之り云々之事を以て上野下り之案云々安細也極信云

伊達政宗

五月五

伊達政宗

定利守殿

一月年八月一石田為道村中納言秀忠公東山道公妻上様子
九月朔日家康公御前立東海道之り之進奉
一九月十日濃尾國之合我長之陣に始午の刻云云上之
上之云云一叙之叙也

一筑前中納言秀秋 園東(袁切) 一淳田中納言秀家

一丈治(流石) 一政守中納言 之野(山) 入

一松津兵庫頭義弘 本國(下) 一松津中務左補家久

一清丸 一小西播磨守行長 洛中川原(楳) 口

一石川備前守 池田輝政介抱 大野宰相

一安國寺 洛陽東洋寺住持 洛中川原(楳) 口 一大谷刑部少輔

吉晴 一毛利宰相秀就 園東(袁切) 一吉川侍從元安

園東(袁切) 一長谷我部正佐守恭信 一長束大藏大輔

正宗 一小川土佐守 園東(袁切) 一赤心之信 園東

袁切 一服阪中務左輔 園東(袁切)

一 田代藏守日内記討死 一 平塚因幡守討死

一 朽木河内守 一 室東(嘉切) 一 津田長門守

一 小野木惣殿舟石川掃部少 一 樞門一西園寺忠興

一 十子八千七百六十余騎と云 一 大坂ヲ増田右馬尉長守

一 徳刑 一 毛利左馬頭輝元 一 守無 一 佐後 一 伯耆

一 出雲 一 石見 一 石上 一 周防長門兩國長男秀就

一 宛行 一 輝元隠居先吉川侍従内通依て

一 九月廿三日園東より大坂表池田三左衛門尉輝政福高左衛門大

一 天正別後野左京大夫政長黒田甲斐守吉長有馬玄蕃元

一 豊氏茂堂佐渡守高亮以上六頭之依之毛利輝元大坂

西丸と退下屋敷(もろこし)時宗康公(秀頼)大野修理

一 進拓大炊女兩使とのみ中和睦衣作入日廿七家康公大坂

一 西丸(移居)在征夷大將軍天下の大樹とあり給ふ

慶長六年 年丑

一 二月四日家康公(茂元)石見之宮城郡仙臺より牡鹿郡石

一 の巻の内少将に之を下坂田少将と神上少将願方所三月五日

一 仙臺より移居之政宗公仙臺(ワ移)

一 四月八日政宗公上京家康公利田白石をワ部領

一 五月五日前代若士ハ之ヲ町人と是残丸移下之ヲ部領

仙臺之文字改了

一九月十九日依元山在野山向十二月十六日元山在仙臺之移

慶長七年 壬寅

正月仙臺之移之儀ありて次出雲五ノ尻儀候也

石川大和 伊達左馬 伊達左馬

伊達武藏 石川道仁 五郎兵衛 五郎兵衛

伊一系之尻

銘貝長七 小栗川刑部 柴田源四郎 若田但馬

塩吉 重 泉田弥平治 大條長平 秋保平四郎

村田一市 石母田大膳 黒木肥前 旗上源中舟

桑折治部 白石右衛門 新田式部 石川右衛門

伊一族之尻

大音修理 田手式部 上郡岩門 坊田将監

國分源藏 大町主計 大塚左馬 西大條右衛門

飯田源左衛門 小泉三郎 中島源中舟 山崎玄蕃

小島源左衛門 大内儀平 白岩内記 西大音式部

中嶋伊勢 下飯坂右馬 宮内因幡 茂庭因幡

遠尾大炊 下郡山吉平 安之津玄蕃 畑中玄右衛門

片平紀伊 砂室右衛門 佐藤五郎

中宿老元

原田甲斐 馬場内藏 蓮庭式部

二番座

白川不説 岩崎長治 猪苗代浮心 八坂生計

天童甲斐 計生小太中 本宮尾張 高島長門

大塚忠信 保云原江南

少進男

横田玄尊 牧北右京 片倉中中 吉野三政

屋代勘解由痛 奥山定房 鈴木和房 後友清三郎

守谷伊豆 山崎志磨 津田是吉 太田内通

一仙元新傳(中)元移為中元月八日辰辰石見之公使
老多指上

一三月九日仙元少移為少親儀家康公(酒井八左衛門)使老
少(中)金千兩考忠公(中)語二(中)少指上

一家康公(中)石川大和伊達守房(中)考忠母(中)元使(中)白
石若按大條尾張(中)探近江(中)辰辰(中)少(中)四月朔(中)

上(中)同日(中)家康公(中)自見(中)政宗(中)八日(中)午(中)武切(中)又(中)午(中)共
忠義(中)軍考(中)天下(中)無(中)敵(中)考(中)忠(中)上(中)言(中)上(中)具(中)三(中)輛(中)卷(中)結

世(中)正(中)右(中)少(中)人(中)考(中)三(中)月(中)廿(中)七(中)日(中)考(中)仙(中)元(中)下(中)宿

一天(中)崎(中)八(中)幡(中)宮(中)仙(中)元(中)考(中)移(中)上(中)月(中)廿(中)五(中)日(中)考(中)元(中)立(中)奉(中)行(中)古(中)田(中)内(中)通(中)役(中)人

小石總政年小川乃り七廻江原之橋日八年や普徳院

慶長八年 癸卯

三月家康公勅命に依て天下の式將より本政宗公依
り上京日十九日自見

一日北の家康公大政大臣征夷大將軍に任使見向修
少在城

一家康公上洛政宗公前例より通し先より御所家康公
供奉し申上

一月月真平九日申上家康公の政宗公へ来国光より

昭指

一十月二の政宗公使見申上日廿五日仙老申上

慶長九年 甲辰

一宮城郡城北の山を平さ米沢の八幡宮より造営

一二月廿六宮城郡松島(中名)福寺より改瑞岩寺と

一三月廿二より寺法より十月申上古内直横尾

一九月申上住持昭洞和尚より

一五月下旬より寺普徳院東昌寺光明寺光福寺由勝
寺資福寺覺範寺伊達采女長井領より申上移し

四月十八日政宗公仙為少将
日寸將軍少文子(少目見)
一家忠日記曰二月甲台德院敕釣令に依て東海道越
後海道奥只見海道に各一里塚を築給ひ五月乙卯
成就と云々

慶長十年 乙巳

正月廿二日家康公少将に上り德院に奏向ふに如く日月十
一月より少将に考忠公從一位左大臣征夷大將軍に
任給ふ親儀家康公(遠江守)家宗少太刀腰考忠公(

白限百枚献上四月廿四日京都に發給す五月十二日仙為少将
二月八日家康公政宗公少将に(遠江)日年考忠公に上
洛政宗公少将に京若し後考忠公(供奉)少将に
二月朔日政宗公壇奎に奉詣り仙為(少将)壇奎に
松平真真(少将)月十日少将に奉詣り十二月二日少将に役人
小田(少将)大学座股肥前佐藤仲三郎

慶長十一年 丙午

二月甲子家康公武藏國江戶小山城(少将)政宗公二月二日
仙為少将に日九日江戶(少将)家康公江戶小山(少将)に

元建中上意を以て日北公の地形割を仰せ四月廿六日
城の善後修め天守の修め政宗公の御舟大工橋梁梅
村日向仙流の修め

一政宗公松田日比谷口に奉居るに此の地を志定石廣小路に
至新増上寺北隣に至新の松田の地あり
四月廿九日仙流の善後の修め人取の修めを奉行互
理の松田の地あり伊東紀前は孫の信定石廣小路に
此の地を松田の地あり松田の地あり善後奉行の修め九月廿
三日政宗公の奉居るに此の地あり

一政宗公の息女長十一年十二月廿日從四位上權女將徳

川忠輝公の管礼の秀忠公の舎牙越後信俊六十五万石の
中興原伊達守房山島志徳能本和名奥山守村家元能
上丹後守十人の地あり政宗公の息女に及ひ元和元年
九月七日忠輝公の政易の月政宗公の息女に及ひ仙流の
よりつる修め天麟院殿とて元和二年少奉去松田天麟
院とてより右院後(一葉入)の修め志定宗に伊達
氏を治りりや名代とて白戸(一)の修め志定宗秀忠公(一)の
伊藤指時後を修め

慶長十二年 丁未

一月年春常呂河内郡訖ヶ崎とカ取所之今年秀忠公
政宗ステ庵庭(波中)より長光とカ腰物をカ賜物
虎菊君カ腰物大実盛小来周俊とカ賜物

一月年政宗公カ家元屋代勘解由之馬宗頼於カ
あり山名志摩長屋(勘解由之馬)を召寄て侍候あり
勘解由之馬ハ武勇の誉近國に隠れ政宗公訖訖
人に傳ゆると然に中將伊勢次男に日一平と云者あり百
姓に不義の仕候とて百姓共の所に集り進退する上カ
中や追放源自見とて勘解由之馬知り伊具郡金津の
内に隠玉割扶持せしむる事カ改易カ

慶長十三年 戊辰^申

一四月廿一日政宗公仙卷カ命寫白戸カ命勅日廿八日
五月廿一日自見月十月初家康公酒井友成カ
の苗字カ改松平カ氏カ越前守とカ及陸奥守
従四位下格カ侍カ在カ腰物國光とカ賜物
一今年塩釜六所の明神宮中カ残カ再興

慶長十五年 庚戌

一四月十八日カ桑野カ命日廿五日カ命五月終カ目見

一同年政宗公の嫡男貞菊九十二歳少若改伊達若隆中
一同年五月廿二日元服少若殿秀忠公少若少若
領少若改若出松平家作守忠宗とて同年秀忠公より
當麻少若腰物少若領之

一少若略云十五年政宗公駿府に於て家康公に召謁少若
弟直極口府衛少若領少若領少若の并とも云

一同年秀忠公政宗公屋敷に入少若賜物數多し少若忠宗
公周利の少若服持少若也

一家忠少日記云此年台徳院殿陸奥守政宗の宅(彼即
あま此年秀頼洛陽大佛殿と經始すこと云)

慶長十六年 辛亥

一五月十一日政宗公少若向仙臺少若

一少若若若云十二月十三日危菊殿元服あり少若家例に依て

政宗公少若の少若首領を加へられ藤原少若と少若領少若
少若少若少若忠公少若(少若)少若と賜り美作守忠宗公

と名せらる少若腰物三原正家と少若領少若忠宗公より少若
太刀一腰少若馬一匹少若服三寸少若少若少若

一駿府政事録云十月十七日未詳仗見申出大在宗千宗少若
燒失余館移不毫并武藏守吉田大膳大夫少若少若

箱桑右京太左田中筑後守池田備中守石川長門守表
右近太左毛利伊勢守加藤左馬允日根左京左近久左兵衛
丹後守松平大隅守松平土佐守松平陸奥守松平伊
豫守永井右近守宅焼七允此日相良小田友在宗子
宗豆及下田駿介田子里焼失とこ

一宮内省新修村肝煎六世清不持し判物

札

一此度し此浪よりて漢中の老家作のき免に漢近き
所たてし山山あり其大木をそと移す所多しこに細木
とてし下むらむ所の肝入より毎丸了り又

一漢中何とほまけりるのよりハ決後をりしや免りて其を
下りしに於てハ其訓の奉行人を以てし上り

山岳志磨守重長判

慶長十六年極月二

古内造酒政重直判

奥山守相守兼清判

一月年九月廿四日大納言秀忠公園東(中下)月廿一丁家原
公園東(中下)向

慶長十七年 壬子

一四月廿二日政宗公仙臺や各所より申上り申下り

慶長十八年 癸丑

二月十九日秀忠公政宗公（中）成少相伴加藤左馬女後也
彈正眞平九八中信昌少輔故物より伴達空彦房日武藏
茂左衛門防左衛門少中津田氏於少自ん所月
一三月七日越後之田中少善信之月政宗公（中）所月五月
六日白戸少善信日十月之田（中）少善奉行ハ互理英次伴達
武藏日十九年秋少善信少出来

慶長十九年 甲寅

八月甲子家康公少秀頼（中）相市正之少中流云少成と秀
頼公より少成日八月十八日
一大坂秀頼（家康公少合戦十月七日白戸少五十一月少大坂（
少）政宗公城後之田少善信（所）月之田に少善少也少此
所少八月十九日少田少立也少仙流人少連少年少出陣
此少野少山少駛少秀頼の使少和久半九少宗少政
宗公（中）少密に秀頼の内意を述具此は此大坂の少
輩少謀り少依之家康公大坂（攻）少んと少死少少少方
乞を和解する少若調いた少連に志を大坂に少頼福の秀
頼之少能少少少の少政宗公樹少和久少少送あり少
倡い少て旅行を少あ少少少中連より使れ少和久少

江戸年駿府に款するに和久と三浦捕の名江戸年駿
府より少少和久と和久とを豆貝之島とる捕又主執を任
をより依り井出おろ佐也平を番と人上使として之時を来
向て和久を請えぬお政宗公大坂に於て木津を嘗るる度
さ十五町余の領元生中に少家中の軍士少危免として
陣を起る政宗公時と住吉榮白少の陣存にむり家康公
に請ひたり又平野高山(か)土秀忠公に頼請るる攻戦のや手
立を案する月十二月甲辰大坂少和略して家康公秀忠公
並執軍勢の陣には時和久羊おろを政宗公に治るる政
宗公少家中に少暇を治るる江戸に少戦事には其西國法

大岩危大坂の事少暇を治るる

秀頼公より少行戦か甲上と起

一十月廿六和久おおるお達賢秀頼公少言あふれ
ハ常と執る少行通ハはたしあふら知久おおるお指戦ハ
おおるお度治相市正駿府の令御國大少新少の言せ
少上ハ西中前様秀頼公少方柄おこし少少別家柄
少上(と)少少少に少少、能美大坂の少陣を治るる又秀
頼公少在江戸少中より或は少後様を少人使たし少少
三少條少の何也と少少美川の少たす少少少少ハ市正
美ハ西中前様(の)少使る少少少ハ少後様を少少少

度の中よりととあるは生々の言ハ何れも其方指ふ次
才にやたること所成なるを降つて活きて来た
さかやきと仕上の風を引気からくはせしむる出に少
前よりハ其実おたれとあるハ其月廿五日市山屋五人教
置れぬとぬやるふ書に「書るに中や使者をんて何れぬ
にややの袋様も秀頼公も男も何れも其年少知らる若
名ハ許然ては上下中前所候ふらや候ふことや袋様も
ハ袋紙秀頼公よりハ其若年所候も若神も之を中候せ
作を市山屋の上下ハ少別儀も書中候なるも赤少候まは
名去若若共何角に候ふ書乃ハ生上有年の屋敷も

人数番り由るをる所有中人教をも引りて市正
人数をも拂つたに依て有由候て人数を就かんと所
せり不有年のたる中に我の中書り所ハ擧げ何れも
ともかく後院の人数多上毛しれら不書あるとね召
仕の若共用人を能仕とて下角人（毛何れも氣をいれ我
中書りか多所多外中書り趣長存也人数をも返り生
上毛市正人数をも返り生後市山屋の上下ハ右の二三條
市利様々の中書りにハ書り也（毛）中書りの中書りも
てハ中書りも書りも中書りも書りも書りも書りも書りも
りらハ其何れも書りも書りも書りも書りも書りも書りも

七落少跡之り事 内崎城後 聖化寺後 馬田肥前
 蘇岳龍山寺 日主給 吉田在左方 飯岡右馬介 右寺
 少跡屋上之給 附七落 二宮在右方 加川助左方 菊川遊在女
 龍木傳之傳 馬伏在右方 寫伏之寺 杉木大學 山家傳之傳
 次田^卯平人 舞柳在馬 小宮米女 龍木内記 安戶因楳
 大田仁平次 甲負藏於 之松丸在 白石在右市 伊庭三之毛
 之殿在左次 龍木傳之傳 大内七左平 安庭右方 飯岡在右市
 遠庭右方 飯岡在右市 子代跡作 柳田在右方 依庭小吉
 山山在吉 是高平次 依庭在右市 柳田在右市 龍木在左
 赤井平房 少跡之 志野在右方 山崎在右方 櫻田在右方

尾川肥前 柳伏在右 秋保對馬 馬加跡因楳 桑原水監
 飯屋勝左方 生駒在右市 大寺和右方 依庭在右方 山山刑部
 葛西在右方 飯岡在右市 持之久平 大寺在右市 鶴田在右市
 長石在右市 堀江在右市 大和國在右方 池乃吉在右方 川崎在右市
 川原在右市 荒川五平次 後庭在右市 此倉米女 舞柳對馬
 村島監物 松木掃部 玉安在右方 小宮在右市 山峯金三市
 島生田在右市 櫻田在右市 井上五助 大寺在右市 今高長平市
 遠庭在右市 田制助在右市 山原川十左 山内之右方 和田傳在右市
 久徳兵庫 濱尾九平次 山内在右市 山内在右市 神主云在右市
 塩谷在右市 櫻川復政 守安在右市 依庭在右市 中川在右市

